

大学

人間情報学部 人間情報学科

海外フィールドスタディ

森博子 教授

フィンランドの施設・企業を視察し、
人間情報学の学びを深める。

「情報デザイン・システム」「心理情報」「図書館情報学」の知識・技術が、社会でどう生きるか。その実際を世界で学ぶのが「海外フィールドスタディ」です。今年度は約1週間の日程でフィンランドへ。参加学生は事前研修にも努め、訪問する施設・企業の研究や文化交流のための英語力向上を経て渡航しました。現地では、世界的なIT企業のノキア社、利用率が世界トップレベルの図書館、ユニバーサルデザインの公共交通、福祉施設、北欧デザインなどを視察。メトロポリア応用科学大学では現地学生と交流を深めました。帰国後、事後学習としてレポート作成に励んだ学生たち。「日常生活を豊かにする、広い意味でのデザインを学んだ」などの声が寄せられ、担当教員の森先生は「海外で得たことを今後の学修や就職につなげ、人間情報学の専門性を社会で役立ててほしい」と期待しています。



愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

中学校

愛知淑徳中学校

英語

香林 英裕 教諭

コミュニケーションの手段として
英語を学び、使うことを楽しもう。

英単語の発音と意味を繰り返し暗唱したり、オーバーラッピングやシャドーイングで会話を何度も読み合わせたり、「英語の音」と「反復」を重視した授業を行う香林先生。「コミュニケーションツールとして国際社会で使える英語を習得するには、英語を楽しむ経験の積み重ねが大切です」と語り、生徒が主体的に学ぶアクティブ・ラーニングを数多く取り入れています。中学2年生の授業では「語彙と文法の定着」を目標に、自主学習の習慣が身につくよう課題を毎回出し、その答え合わせの時間も生徒同士の学び合いの場になっています。また、香林先生は、隔年で実施しているオーストラリアやイギリスの研修旅行も担当。国際交流や異文化体験のチャンスを用意し、「世界中の人々と思いを伝え合い、理解し合うために、英語力をもっと伸ばしたい」という生徒たちの意欲を引き出しています。

